

参加者、

青木、浅田、石川、伊東、北島、神前、鈴木、田中、  
鳥飼、中島、並木、松田、安田、山岡、遊佐、吉村、  
かわらばん担当、中島 邦雄

BMW RS Club

# かわらばん

一泊ツーリング特集号

October 4~5, '97

郡山より裏磐梯を抜け、  
まほろばの里、赤湯へ

余りに長く厳しかった夏の暑さに辟易しているうちに、いつしか“せみ時雨”が虫の音に変わり、どこまでも碧く高く澄んだ空が見られるようになりました。

皇居の周囲では堀越しに緋赤の曼珠沙華(彼岸花)が緑の土手に咲き、花ミズキも紅い実を付けて、葉先が秋の色に変わり始めました。金木犀がその爽やかな香りをふりまき、柘榴(ザクロ)がトマトのような実を付けています。何処も此処も秋で満ちあふれた中に、夏の名残りのバラが幾つか咲き残っているのが、季節の移ろいを感じさせます。

八月は我がクラブも夏休み。そして九月のツーリングは会津方面が雨模様でお休みとなり、暑さに弱い私にいたっては、平素から余り自信の無い体に悪いからと七月も休み、実に四ヶ月ぶりで皆さんの懐かしい(?)顔を見ながらのツーリングです。

そこで何時もながらに気になるのはお天気のこと。今までにもヤオヨロズノ神をはじめナンジャモンジャなど、随分と古今東西の神様のお世話になってきました。そこで今度は少しばかり目先を変えて(?)我が国をお造りくださったというイザナギノ命(ミコト)と、そのカミサンのイザナミノ命の娘で、太陽の神たる天照大神(アマテラスオホミコト)様に願掛けをしました。

しかしながら「女心と秋の空」というように、相手は女の神様です(おい、セウハテモ!)。そこで彼女の機嫌を損ねずに、なんとか願いをお聞き頂こうと、酒を断ち(?)斎戒沐浴(さいかいもくよく)して女も遠ざけ、地に伏し天を仰いでひたすら晴天を願いました。

ところが情けないことに、予報は序々に悪い方へ向かい、週末にはしっかりとマークが出てしました。平素は余り予報なぞは当てにしませんが、バイクで遠方まで行くとあっては、それを信じざるをえません。神様には悪いと思いつつ、車で行く方向へ話が進んで行きました。

前夜の内に会長より各々の車の割り振りも聞かされ、「たまには車で行くのも良いじゃないか」と負け惜しみを言いつつ出発です。ところが天気の方は一向に降る気配すら無く、「せっかく車で来たのだから降ってくれ~」と変なお願いをする始末です。

渋滞に引っ掛かって我々が遅れ、先発グループが安積PAへ向かい、携帯デンワで連絡を取りつつ、残りの者が後に続きました。空はますます明るくなっていました。

北上するにつれ木々の葉が色づき始めます。分離帯の植木がまさきからヒイラギに、そしてシャリンバイからネズミモチへと変わって、やがて200キロ程で安積PAに着きました。

「あれ~、鳥飼さんが奥さんを連れてきたよ」と話しながら近寄ってみると、なんと髪の毛の長い石川さんでした。

仲間が揃ったところで会津坂下(ばんげ)へと向かいました。東北道から十月一日に全通した盤越道に入り磐梯の先で高速を降りましたが、山の上の方を見上げても、未だ紅葉には早い感じです。ここから飯豊連峰の麓の「蕎麦の里センター」が有る山都(やまと)に向かいました。東京から300キロ余を走り継ぎ、やっと餌にありつけたと思ったら、それから自分達でそば打ちです。

ふくすま弁のオバチャンの指導で、全員が前掛けを締め二人組でソバをこね、さらに延ばして切り茹であげて、どうやら食べる運びとなりました。太くてラーメンのようだと言われる人、短くてとてもソバとは思えないもの等々、大騒ぎをしながら腰の強いソバを食べました。

禁酒、禁煙の場所で、我がクラブとしてはアルコール抜きの昼飯など初体験でした。「やればできるものだね~」と変な感心をしましたが、何か物足りません。

そこからラーメンの里、喜多方を抜け裏磐梯へと向かいました。道の所処にコスモスが可憐な花を付け、如何にも秋たけなわの感じですが、期待していた金山を染め上げる紅葉には程遠く、下の方では未だ木の葉は青く、僅かにウルシ類やナナカマドが色付いていました。

私は去年の同じ時に来て、同じ場所で見事な紅葉を見ましたから、今年は暖かいのかも知れません。もう一週間もすると、あのシビレるような紅葉の見頃を迎えることでしょう。

桧原湖が見えたところで、アロマテラスという小体なレストランへ入り、コーヒーブレイクとなりました。この頃から小雨が降り出し「やっと降ってきたぞ~」と歓声が上がりました。